

2年次の学修について

2年生の皆さん、進級おめでとうございます。大学に入学してから1年が経過しましたが、大学生活は慣れましたか？2年次より、いよいよ白金キャンパスでの学生生活が始まります。通学手段や学習環境が変わり、学習内容もより専門性が高くなります。最初は戸惑うこともあるかもしれませんが、まずは、規則正しい生活を心掛け生活のリズムを作り、なるべく早く新しい環境に慣れるように致しましょう。将来の目標達成に向けて、計画的に粘り強く努力を続けてください。

2年次では、細分化された薬学基礎専門分野の科目を学びます。必修科目の大部分は生命創薬科学科と薬学科で共通のものであり、将来の希望進路にかかわらず、専門性の高い「薬学」を学ぶための基礎固めをする大切重要な時期になります。講義や実習が立て込んでおり、定期試験の科目も格段に多くなります。試験直前の対応だけでは乗り切ることができませんので、日々の学習を怠ることなく勉学にしっかり取り組んでください。

各学科に特徴的な科目も開講されます。例えば、生命創薬科学科の「生命創薬科学Ⅰ・Ⅱ」では、本学部の基礎系研究室の研究内容を知ることができます。生命創薬科学科の皆さんは、3年次後半から研究室に配属され卒業研究をスタートさせます。配属教室を決める際に、本科目を参考にしてください。そして興味を持った研究室があれば、積極的に訪問してみてください。先生方や先輩方から話を聞くことができ、自分の将来の目標がより明確になることと思います。

薬学科においては「社会薬学実習」（生命創薬科学科は選択科目）があります。ここでは、初期救命救急、服薬不自由体験実習をはじめ、薬害肝炎、禁煙指導、災害時医療に関する実例に触れ、グループワーク、討議、発表を通して、将来、医療人になるための取り組み姿勢について学び、考える機会となるでしょう。医療人としての緊張感や矜持も感じてください。薬学科の皆さんが研究室に配属されて卒業研究をスタートさせるのは4年次からですが、自分がどのような研究分野に興味があるのか考え、早期に研究室を訪問してみてください。

このように、いずれの学科においても、基礎科目を学びながら早期に研究や医療の専門領域に触れる機会を大切にしています。是非、幅広い知識を身につけてください。また大学での学修に加え、様々な活動にも積極的に取り組み、「人間力」を高めてください。2年次は、皆さんがいずれ社会に出るための知識・経験を蓄え、将来の選択肢を広げるための基礎体力作りの期間です。皆さんが充実した2年次を過ごされることを祈念いたします。

2025年度2年次学年主任

久保田 理恵（臨床薬学教育部門・教授）

3年次の学修について

新3年生の皆さん、進級おめでとうございます。

白金キャンパスでの大学生活も1年が経過し、ずいぶんと慣れてきたことと思います。「薬学」に関するより専門性の高い内容の講義・実習が増え、薬学部に進学したことを改めて実感できたのではないのでしょうか。

3年次では、薬学科・生命創薬科学科ともに、2年次で学んだ物理系・化学系・生物系などの基礎科目から、薬理学、衛生化学、公衆衛生学、臨床系など、より専門的で高度な科目が開講されるようになります。薬学の知識を体系的に身に付けていくために、2年次までに習得した基礎知識が専門的な科目にどのように関連しているのかを意識して学んでいくことが大切です。

薬学科では、キャリア教育として臨床系科目が増え、医療に関する知識や、医療人に必要な倫理観や社会性などをより深く学びます。また、3年次は4年次での研究室配属を見据えて、プレ特別実習を利用すれば、早期に研究を体験できる可能性があります。講義・実習のない時間帯や休暇を活用した研究室における早期体験は、4年次に研究室を選択する際に大いに役立つことでしょう。興味のある研究分野、研究室があれば、教員から話を聞いてみるほか、研究室を訪問する、先輩からも話を聞くなどして、実際の雰囲気を感じてみることもできるでしょう。

生命創薬科学科では、創薬情報科学、理論分子設計学、創薬化学など生命創薬科学科独自の講義に加え、臨床系科目を含む多くの選択科目が開講されます。これらの選択科目を履修することにより、研究者に必要な知識だけではなく、薬学、特に医療薬学の知識を習得することができ、将来の就職先を選択する際にも役立つでしょう。後期からは研究室に配属され、卒業研究が始まります。研究室の選択は自分自身の進路を考える第一歩でもあります。色々な研究室を見学し、先生・先輩方の話を聞いて様々な研究分野を知り、自分がどのような研究分野に興味があるのかをしっかりと考えた上で、研究室を選択すると良いでしょう。

このように、3年次は、基礎薬学と臨床薬学を融合したカリキュラムに従い学び、これらの教育を通して、医療人や研究者、技術者等となるための土台を固める重要な一年となります。皆さんが、学びや研究に真摯に取り組むとともに、最先端の研究に触れ、自ら挑戦し経験することを切に願っています。実り多き1年を過ごされることを祈念いたします。

2025年度3年次学年主任

加藤 くみ子（分析化学教室・教授）

4年次の学修について

新4年生の皆さん、進級おめでとうございます。

入学以来、早いもので3年が経過し、生命創薬科学科の皆さんは最高学年、薬学科の皆さんは薬剤師としての実践的な能力を身に付けていく学年となりました。

生命創薬科学科では、配属研究室での卒業特別実習が本格化し、卒業研究と卒業論文の完成を目標に、日々、研究に明け暮れることになるでしょう。そのような忙しい日々の中、自分の将来の進路についても、しっかりと考えてください。大学院進学後に就職するとしても、どんな職種があるのか、どんな技能が必要なのか、など就職活動の実態についても徐々に情報収集していくことも必要です。研究職を目指す場合には、博士課程についても情報収集が必要です。1年間の卒業研究は、薬学研究に関する知識や技能、問題発見・解決能力、プレゼンテーション能力を養うための大変よい機会です。興味をもってしっかりと取り組み、納得のいく卒業論文を仕上げるように努力してください。有意義な1年になることを期待しています。

薬学科では、薬局・病院事前実習、薬学共用試験（OSCE および CBT）を経て、薬局・病院実習に出かけていくこととなります。薬局・病院事前実習は、薬剤師業務に必要な基本的知識・技能・態度等の習得を目標とするもので、しっかりと取り組むことで十分な OSCE 対策となります。一方、CBT 対策は、基本的には自己学習で行なうこととなります。試験範囲が広いため早めに対策を始めてください。薬局・病院実習を行うためには、OSCE と CBT の両方に合格することが必須です。全員が合格し、薬局・病院実習に出かけられることを願っています。また7月には、卒業特別実習を行なう研究室が決定します。研究室については、先生・先輩方の話を聞いて、自分がどのような研究分野に興味があるのかを良く考えた上で、選択すると良いでしょう。基礎薬学と臨床薬学の両輪を学び、医療人に必要な倫理観や社会性などについて習得することを期待しています。

最後に、皆さん自身が選んだ「薬学部」での学びの中で、自己研鑽を重ねながら成長されることを切に願っています。新しい時代の変化に対応しつつ、今年度もできることを一つ一つ積み上げ、皆さんが、実り多き4年次を過ごされることを祈念いたします。

2025 年度 4 年次学年主任

奥脇 暢 （生化学教室・教授）

5年次の学修について

新5年生の皆さん、進級おめでとうございます。薬学共用試験（OSCE、CBT）を突破し、進級・新学期を迎えることができたことを大変嬉しく思います。

5年次は、病院・薬局実習と薬学卒業特別実習（卒業研究）が中心となります。一部の方は既に始まっていますが、保険薬局実習では、薬局薬剤師としての業務（保険調剤、医薬品などの供給・管理、情報提供、健康相談など）の他、地域医療に参画するための基本的な知識、技能、態度を修得することを主な目的とします。それに続く病院実習では、病院薬剤師の業務（注射薬を含む調剤、製剤、病棟業務など）とともに、チーム医療に参画するための基本的な知識、技能、態度を修得することを主な目的とします。病院・薬局実習を通して、これまでに大学で学んできた知識・技術をより実践的なものとする、コミュニケーション能力の向上に努めること、医療人に必要な倫理観や社会性を身につけることが重要です。また、卒業後の進路について考える非常に良い機会になるでしょう。積極的な態度で実習に臨むことを期待します。

コロナ禍を経て、社会は感染症への関心が高まっています。医療機関においては、引き続き感染症の予防と対策に注意が払われることでしょう。受け入れ先の施設の方々や指導薬剤師の先生にご迷惑をおかけしないよう、感染症対策と体調管理に気を配るようお願いいたします。また、実習先では、多くの業務を抱え、多忙な中、指導してくださる先生に感謝の気持ちを持って、1日1日の学びを大切にしてもらいたいと思います。

4年次からの卒業研究は、引き続き実施します。薬学教育モデル・コアカリキュラムにおいて薬剤師として求められる基本的な資質の1つに「研究能力」があります。卒業研究は、薬学部6年間の学びの中で、研究能力を養うことができる唯一の科目といっても過言ではありません。与えられた研究課題に取り組み、実験・調査などを通じて「未知あるいは未解決の問題」に対する答えを追究するプロセスを経験し、そこに楽しみを感じてもらえたらと思います。卒業研究を通して、論理的思考や問題解決のためのアプローチ法、研究倫理、自身の研究を他者に伝えるプレゼンテーション能力、そして研究を進める上で大切な粘り強さを身につけてください。本格的な卒業研究は、医学部や看護学部にはない、薬学部独自のプログラムであり、ここでの経験は、将来どのような分野に進んだとしても薬学部出身者のアイデンティティとして皆さんを支えるものになります。

病院・薬局実習や薬学卒業特別実習などで忙しい一年となるとと思いますが、同時に充実した一年になるはずで、実り多き5年次を過ごされることを祈念しています。

2025年度5年次学年主任

成川 衛（医薬開発学教室・教授）

6年次の学修について

新6年生の皆さん、進級おめでとうございます。北里大学薬学部での学生生活も、いよいよ最終年次となりました。薬学教育の集大成となる「チーム医療演習」、「卒業特別実習（卒業研究）」、「薬学総合演習」という、3つの必須科目にしっかり取り組んでください。

「チーム医療演習」は、相模原キャンパスにおいて、4月30日と5月1日の2日間にわたって実施されます。本学ならではの特色ある教育プログラムの1つになっている、医療系学部在籍する学生が将来の職種によってチームを編成して取り組む実践的な演習です。他学部の学生と交流できる貴重な機会であり、この機会を十分に活用して、他職種との連携や医療チームにおける薬剤師の役割について理解を深めてもらいたいと思います。

「卒業研究発表会」は、7月5日にポスター形式で行われる、4年生の1月から取り組んできた卒業研究の発表の場です。しっかりと準備して臨み、わかりやすく伝えることを心がけてください。発表用ポスターと卒業論文は自分自身で深く考えて納得のいくものに仕上げることが大切です。その過程を通して身につけた問題発見・解決能力、論理的思考能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力などは、将来、皆さんを支える力になります。是非、積極的に取り組みましょう。

「薬学総合演習」は、後期から始まります。今まで学修してきた知識を体系的に学びなおすことで、実践的な薬剤師としての能力を養います。単なる知識の暗記にとどまらず、物事を論理的に理解し体系的に結び付けていくことが大切です。教科間連携を意識しながら取り組みましょう。過去3年間の薬剤師国家試験問題を早めに見ておくことも、知識の見直しに役立ちます。分からないことがあれば、先生に質問したり、友人同士で話し合ったり、自分で調べたりして、その都度、解決しておくことも大切なことです。

6年次の一年間は、これまでの薬学部での学びを集大成する一年であり、特に後期は薬剤師国家試験までの大切な時期となります。体調管理に十分気を付けながら、計画性をもって過ごすようにしてください。

学生生活や学修等で困ったことがあれば、チューターや学年主任はじめ、教職員一同、皆様の支援できる態勢を整えておりますので、遠慮なくご相談ください。

皆さんの学生生活最後の一年が充実した年になることを祈念しております。

2025年度6年次学年主任

中原 努（分子薬理学教室・教授）